スポーツ振興くじ助成事業

平成 25 年度　東海ブロッククラブネットワークアクション 2013
開　催　報　告

日時：［1 日目］平成 25 年 11 月 16 日（土）　13:00～18：10
［2 日目］平成 25 年 11 月 17 日（日）　9:00～12：00

会場：伊勢市観光文化会館（三重県伊勢市）

内容：

［1 日目］

■開会行事

■創設支援ゼミナール「創設の障害をフロアの皆で取り除いていこう」
コーディネーター：簗瀬歩（東海ブロック実行委員長）

■ゼミナール・総合型クラブ「自分たちの問題に自分たちで答えを出してみよう」
コーディネーター：実行委員長、SC 全国ネットワーク東海 4 県代表委員、
クラブアドバイザー、クラブ育成事業担当者

■全体会

■スポーツ振興くじ助成金についての説明

［2 日目］

■講演「スポーツのあらゆる場において、体罰や暴力行為がなくなることに向けて」
演者：髙橋 正紀 氏（岐阜経済大学教授、東海ブロック実行委員会副委員長）

■ゼミナール・総合型クラブ Part.2「さらに困難な課題に対して、解決策を探してみよう」
コーディネーター：実行委員長・副委員長、SC 全国ネットワーク東海 4 県代表委員、
クラブアドバイザー、クラブ育成事業担当者

■閉会行事

【概要】

本事業は、今年度よりスポーツ振興くじ（toto）助成金により実施し、事業実施協力金を負担いただく事業となるため、参加者に対して費用対効果が得られるようなプログラムを目指して企画した。

基本的に、創設に向かうクラブも自立を目指すクラブも、あるいはアフターtoto に向かうクラブも、それぞれに運営上の問題や課題を抱えている。したがって、今回は課題を 3 段階に設定し、それぞれの解決策を探るワークショップを企画した。

第一に創設を目指す活動上の課題や問題点、第二に設立したクラブが継続していく上でぶつかりやすい課題や問題点、そして第三に将来の自主運営に向けた難易度の高い課題や問題点をいくつかあげ、日程を三分割してのワークショップを実施した。

また、特に東海ブロックではここのところスポーツ指導現場における体罰やハラスメントの問題がクローズアップされたことに鑑み、2 日目に体罰や暴力行為を防止することを趣旨とした基調講演を入れた。

【討議内容】

[1 日目]

【創設支援ゼミナール】

「創設の障害をフロアの皆で取り除いていこう」というタイトルのもとで、フロア全体から発言してもらう形式でのブレーンストーミングを実施した。実行委員長が全体をコーディネートし、各県代表委員他の実行委員が助言者の立場をとって、できるだけフロアから解決策を出すように進行した。具体的には、以下の課題に取り組んだ。

① 設立準備委員の取り組みへの温度差をどうするか？
② 設立までの準備を合理的に行っていくための知恵
③ クラブを地域認知してもらうための知恵

【ゼミナール：総合型クラブ　Part.1】

設立したクラブが継続していくために越えなければならない課題について知恵を出すために、参加者を 5 つのグループに分け、グループ討議によってできるだけ多くの方に発言してもらうように配慮した。具体的には、以下の課題についてグループ討議を行った。

① 会員数の増員と確保
② 指導者の確保
③ 活動場所の確保

各グループのコーディネートは、各県代表委員とクラブアドバイザーが担当し、その他の実行委員が各グループのタイムキーパーと記録担当を務めた。全体の進行は実行委員長が行った。

[2 日目]

【基調講演】

「スポーツマンのこころ」と題して、髙橋実行副委員長の専門領域での研究成果に基づいて、スポーツ指導現場において体罰やハラスメントが如何に無益で残念な行為であるかについて講演を行った。

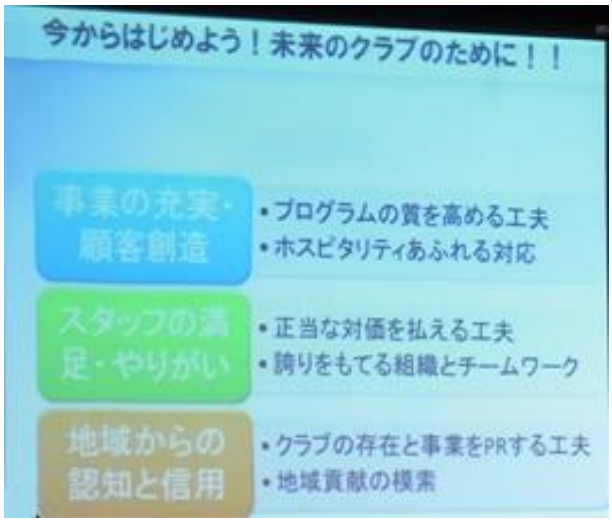
【ゼミナール：総合型クラブ　Part.2】

1 日目と同じグループ編成によって、さらに将来へ向けた困難な課題への解決策を探ることを目的としたグループ討議を実施した。コーディネーターおよび記録担当は、担当班をシフトし、グループの雰囲気に変化が出るように配慮した。具体的な課題は以下の通り。

① マンネリを打破して新規事業をたちあげたい。
② 助成金に頼らないクラブ経営を考えたい。
　アフターtoto のプランを策定したい。
③ 運営スタッフの後継者を確保したい。

【まとめ】

非公式に参加者の感想を聞いた段階では、実りあるイベントになったという手応えを感じている。少し残念に感じるのは、皆さんがクラブ運営の中心にいるため、ご自身の経験則でしかアイデアが出てこないことだった。「知識創造」をキーワードとして、新たな暗黙知を創出し、表出化・共有することをねらいとしていたが、そこまでは到達できなかったことが残念である。しかしながら、先輩クラブの運営ノウハウから後輩クラブがヒントを得たり、後輩クラブのつまずきから先輩クラブが自身の運営を客観的に振り返ったりと、多様なクラブの多様なメンバーが交流することのメリットはずいぶん出せたと感じている。



今回の反省点から鑑みると、実際のクラブ運営を振り返りながら発言する形式よりも、架空の設定からクラブ運営のシミュレーションを行うような催しの方がさらにいいアイデアが生まれるのではないかと感じた。数年前にグループワークによって旅行の企画を立てたことがあるが、あのような作業を通すと、知恵を出して共有し知識にしていく過程を、より鮮明に経験できるのかと思う。次回の課題として検討していきたいと思う。

東海ブロッククラブネットワークアクション 2013
実行委員長　　築瀬　歩